

2016年度ランゲージラウンジ活動報告

教養教育センター ランゲージラウンジ運営委員会

1. 総括

2008年に始まったランゲージラウンジ活動は、まず語学検定試験用の問題等をそろえて学生たちが自律的に学習できる環境をつくることから始まった。現在では、英語とスペイン語はILSSP (Independent Language Study Support Program) を開設し、学習者自らが具体的な目的を設定して、その目的に向かって定期的にチューターと面談しながら学習するプログラムを展開することで、自律学習実践の手助けを行っている。

また、英語以外の外国語では、言語ごとに曜日・時限を決めて、ネイティブスピーカーとの会話実践の場やオンライン学習の学習補助の場を提供したり、日頃の学習の補足を行ったりしている。

以上のように、現在、各外国語がそれぞれ独自の事情を考慮して行っている。引き続き次年度についても、留学生との交流の場などを増やし、言語がコミュニケーションの道具であることを実感できるような場を増やすことを目標に、多様な外国語支援活動を行っていききたい。

2. 活動詳細

2.1 英語部門：石渡周二

英語部門では、昨年度に引き続き、英語の自律学習を1学期間にわたってサポートする Independent Language Study Support Program (ILSSP) と、昼休みに英語による学術的な講義を聴講する Luncheon Lecture Series を主要な活動の基軸として実施した。

まず、毎年度、参加した学生から高い評価を得てきたILSSPは、今年度も春学期と秋学期の2期にわたり実施した。毎週月曜日の11:00-15:30をコーディネーターの山森由美子氏（本学非常勤講師）が担当し、毎週木曜日の11:00-15:30をコーディネーターの坂井誠氏（本学非常勤講師）が担当した。各学生が設定した学習目標を達成すべく、ポートフォリオを活用して自律学習に励むことができるように学習支援を行った。学生の選抜方法は、従来通りオリエンテーションを行い、募集と選抜を行った。採用予定人数を大幅に超える多くの応募があったことから、登録希望者に英語学習に対する熱意を調査用紙に記入してもらい、その内容を勘案した上で選抜した。各学期の参加者数の詳細は表1のとおりである。

表1 ILSSP実績

実施期間	参加者数
春学期（5月-7月）	25名 [文学部7、経済学部3、社会学部2、法学部6、国際学部4、心理学部3]
秋学期（10月-1月）	24名 [文学部6、経済学部3、社会学部5、法学部3、国際学部3、心理学部4]

2016年度のLuncheon Lecture Seriesは春学期2回、秋学期3回となり、計5回開催した。本学の非常勤講師及び専任教員の5名が、それぞれの専門について英語で講演を行った。今年度のテーマ

は様々で、日本の古代神話や英語学習のヒントなどが取り上げられた。参加者の学生にとって、昼食を取りながら気軽に楽しく英語に耳を傾ける機会となった。特に第3回の第二次世界大戦中の日系アメリカ人の強制収容に関する講演に関しては、今まで知らなかった、大変興味深かった、という声が聞かれた。

表2 2016年度Luncheon Lecture Series実績

	日付	タイトル	講演者	参加者数
第1回	6/15	“Remon” or “Lemon”? “Sank You” or “Thank You”? “Labbits” or “Rabbits”? “Bollyball” or “Volleyball”? “Yes Sah” or “Yes Sir!”?	Patricia Yarrow (本学非常勤講師)	92名
第2回	7/14	Walking in the Underworld: Izanagi's Descent to Yomi in Modern Pop Culture	Dax Thomas (本学非常勤講師)	96名
第3回	10/19	Behind the Fence: Japanese American Identity and Education	Aya Iino (本学非常勤講師)	49名
第4回	11/8	Animals at the Crossroads	M. Trazi Williams (本学非常勤講師)	61名
第5回	12/9	Zen and Japanese Poetry	Molly Vallor (本学専任教員)	41名

2.2 ドイツ語部門：吉田 真

2016年度ランゲージラウンジ(ドイツ語部門)は「ドイツ語 de ランチ」と題して、森本康裕氏(本学非常勤講師)が毎週金曜日の昼休み(12:30～13:20)に行なった。毎回定期的に参加する学生の人数は年間を通して5、6名程度であった。参加者の大半はドイツ語初級を履修している1年生の学生だったが、中級ドイツ語を履修している2年生の学生も参加し、ときには本学の教員がドイツ語再学習のためということで参加されることもあった。

教材としてインターネット上のウェブサイト『東京外大言語モジュール(ドイツ語版)』を利用し、ドイツ語リスニングや基礎文法項目の解説を行った。また、重要なフレーズや単語の確認、すでに授業内で学んだ文法事項の簡単なおさらい、典型的なドイツ語の言い回しなどを学習した。

本講座では春秋両学期を通じ、授業時に学んだ基本的なドイツ語文法の復習やその応用のための機会を提供すること、参加者がドイツ語やドイツ文化に親しみをもってもらえるように努めること、そして参加者のドイツ語学習へのモチベーションを高めることを目標とした。

2.3 スペイン語部門：大森洋子

スペイン語では、オンラインコースを行なうとともに、非常勤のFrancisco GARZÓN先生を講師に、Tertuliaと名付けて、会話実践の時間も設定した。

自律的な学習をより効果的に行えるオンラインコーススペイン文化センターが開設しているAVEがリニューアルし、AVE globalとなり、スカイプ授業を含む自律学習コースとなり、コース最初、および途中で2回の受講を行なうことが可能になり学生たちの学習意欲の向上がみられた一方で、スカイプ授業自体の受講の徹底がなされず、講師の先生には迷惑をかけた点が反省点である。春学期、秋学期それぞれ7、8人の参加があった。

一方、会話スペースでは、一部の授業とコラボする形で、スペインの生活、都市について聞いてくるなどの課題を出すことによって、授業外での学習を促した。参加がゼロという日もあったが、平均的に5、6人の参加があった。次年度は、さらに、授業との連携を確立することで、学生たちが真のコミュニケーションの場を提供していきたい。

2.4 中国語部門：洪潔清

2016年度の中国語部門「中文会話倶楽部」の活動は、昨年度と同様、毎週木曜日の昼休みに横浜校舎1号館138教室で行なわれた。留学生を中心に指導を担当してもらい、活動は春学期と秋学期それぞれ11回と12回開催された。参加者は昨年度ほど集まらなかったが、一回の参加者数が平均しては7、8名いた。参加者の中には4月から中国語をスタートしたばかりの新メンバーもいれば、昨年度から継続して参加する上級生もいた。また、協定校から来た交換留学生や中国語を学ぶ韓国留学生も参加していた。

春学期は昨年度と同様に、留学生による現代中国事情や中国文化の紹介を中心に活動が行われた。例えば、写真と映像を通して、端午の節句に関する物語や、中国に今なお残されている慣習を紹介することにより、日本人学生に中国の伝統的な祭日の一つを知ってもらった。一方で七夕には、参加者全員が日本の風習に従い、短冊を書いたりして交流を深めた。

秋学期は主として授業内容の補習や相談、実践的な会話の練習などが行われた。試験勉強のために質問に來たり、留学生を相手にリスニングの問題を練習したりする、熱心に中国語に取り組んでいる学生たちが参加していた。練習の成果が小テストなどで発揮できた学生は、学習意欲をさらに高める機会になったようである。

また、留学生と日本人学生間の交流をさらに深めるために、倶楽部の課外活動として12月7日に倉田コミュニティハウスで、学生の任意団体「アジアのわ」とともに「日中学生交流会」を開催した。当日は、教員2名、中国人留学生と日本人学生、計17名が参加した。参加者たちが野菜を洗ったり、切ったりして、まずは餃子作りからスタートした。中には、この日初めて包丁を握った人もおり、悪戦苦闘しながら餃子づくりに挑んでいた。他学部の教員も参加してくれ、留学生たちと餃子を作りながら会話を交えた。ワイワイガヤガヤと楽しく他の料理も完成させ、テーブルを囲んでみんなで作った料理を味わった。食事をしながら、普段の短時間の倶楽部よりも話題や内容が充実した意見交流が行われた。終了後、日本人学生の一人は、「餃子づくりを経験することにより異文

化を身近に体験することができた」と話した。また、今回幹事長を務めた留学生は、「来年度はもっと早くから準備をし、より多くの学生に参加してもらおう頑張りたい」と意気込みを語っていた。

2.5 韓国語部門：金珍娥

2016年度韓国語ランゲージラウンジは横浜校舎において以下のような日程と体制で週1回実施した：

●横浜校舎

担当講師：高槿旭（コグヌク）

実施期間：春学期2016年4月26日～7月19日（毎週火曜日）

秋学期2016年10月4日～12月20日（毎週火曜日）

教室：明治学院大学横浜校舎 138教室

時間：12時30分～13時20分

人数：春学期 5～6人 秋学期 3～5人

担当講師の高槿旭先生から以下のようなことが伝えられた：

話す能力の向上を最大の目標とした。具体的な内容と、成果は次のごとくであった。

1. 学習の内容：韓国語の単語、また人物、料理などの動画について韓国語で説明、語り合う

韓国の歴史上の人物、料理などの画像をタブレットを用いて見ながら、話す練習を行った。韓国の童謡など、子供向けの番組の動画を見ながら話す練習を行った。

単語カードを用いて単語の説明をし、単語を当てるなどゲーム式の学習も行った。

2. 学生の反応と成果

春学期：全員初級クラスのレベルであったので、易しい韓国の童謡や単語ゲームなどで韓国語の学習を進めた。高度な会話ではないものの、とりわけ語彙力を中心に表現力が高まった。学生は積極的に参加しており、韓国語にも親しみを持ち、楽しく学習することができた。

秋学期：積極的に韓国語で話そうとする姿勢が向上し、学生の学習意欲も大いに高まったと言える。学期末の総括として、ランゲージラウンジの参加によって韓国語が話せるようになったという意見が多かった。講師としてもやりがいを感じた。